

早稲田大学 人間科学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問4題は例年と同じ。 経済2題、政治、社会保障が1題ずつ。 問題文が長く設問数が多く、基礎・標準的知識では解けない問題が昨年よりも減少した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	自由と平等	人権問題をフランス、明治憲法、日本国憲法、最近の法律と幅広く問うている。問1・2・4はフランス人権宣言や明治憲法を注意深く読んでいないと解けない。問5は政経の知識だけでは無理。問8は三菱樹脂事件の正確な理解がないと1を選んでしまうだろう。問10は人権の私人間適用を学んでいるとわかる。問11～13で正解を得るには詳しい知識が求められる。	やや難
Ⅱ	世界経済の動向と日本	問3は詳しい内容で、一見難しそうだが、FTAの内容が明らかに間違いなので、正解は得られる。日本がFTAを最初に結んだのがシンガポール。日本の農産物への影響が少ないからである。問7・12は難問。他は基礎・標準的知識で解ける。	標準
Ⅲ	アジアの人口動向	問4・6・11・15は地理の問題といえようが、6・15は社会常識と言えなくもない。問7の英字略号にも気をつけたい。他は基礎・標準的問題。	標準
Ⅳ	各国の社会保障	問1は世界史の問題。問2～5の正誤判定は、詳しい内容が含まれていて難しく見えるが、基礎力のある受験生なら間違いを見つけやすい選択肢があるので、それほど難しくはない。問7は細かい。資料集のグラフ	やや難

		類を丹念に確認しておきたい。(3)では介護保険法が最新のものであり、厚生年金保険法が戦前のものであることを知っていれば、正解が得られる。	
--	--	--	--

[総合コメント]

難問は昨年より減少したが、問題数が非常に多いのは変わらない。解答にあたっては基礎的標準的知識を駆使し、文章の中からヒントを探し出し、粘ることが必要。

いわゆる難しい問題に眼が行きがちだが、基礎的・標準的知識で解ける問題を取りこぼししないように基礎をがっちり固めることが必要である。

その上で、過去の問題を解き、「ここまで出題されるんだ」と実感し、その出題された知識を教科書、用語集、資料集などで確認しつつ、基礎・標準の上に積み上げて行く努力が必要である。そこまでやるためには、社会の出来事に関心をもち、ニュースに注意を払える問題意識が必要であろう。